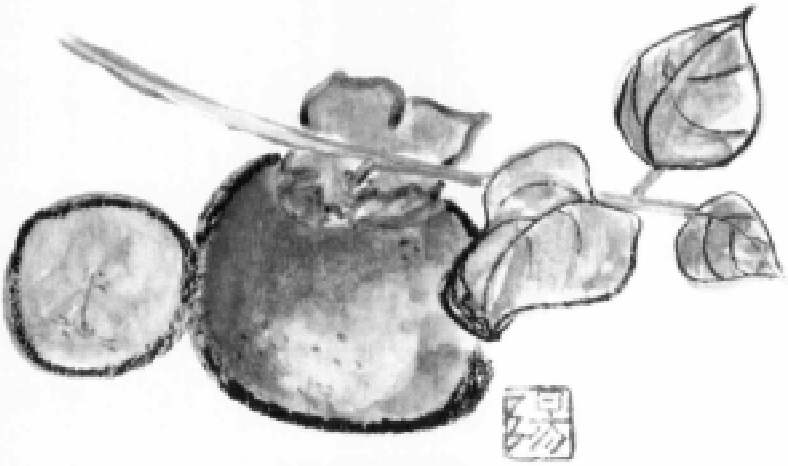
第Ⅱ章.　将来都市像と都市構造



Ⅱ－１．将来都市像　―あさおの将来像―

１．麻生区の将来像を考える

（１）都市計画マスタープラン麻生区構想では

・都市計画マスタープラン麻生区構想は、地域・テーマに分かれて検討しましたが、それぞれのグループがどのような将来像を描いているか整理しました。

①共通項はあるか

―持続可能な―

・テーマ別、地域別ともに「持続可能なまち」が共通の理念としてあげられます。

②見出し語からみた背景となる考え

・都市計画マスタープラン麻生区構想の背景となる考えを、テーマ別、地域別の見出し語から拾い出すと次のようになります。

・環境への負荷が少ない
・世代が循環し、多様な世代がバランス良く住み続ける
・まちの資源を活用する
・リビング・ライブラリーの思想を取り入れる
・農業の持続的営農環境と、都市の貴重な緑の保全の両立
・区民の安全でスムーズな移動

③将来の姿は

・以下のようなキーワードが抽出されました。

・歩ける　まち
・芸術・文化のかをりがする　まち
・職・遊・住の融合した　まち
・坂道に映える　まち
・まつりといやしの調和する　まち
・子育てしやすい　まち
・コミュニティが醸成した　まち
・多世代が交流する　まち
・安全・利便性の高い交通ネットワークのある　まち
・緑と水の活かされた　まち
・地域住民の安全を考えたまち
・土地利用のルールのある　まち
・営農環境が保たれた　まち
・田園里山環境を活かした　まち

（２）いかに持続可能なまちをつくるか

・以上を踏まえ、麻生の将来像を考えるに当たっての必要十分条件として、「麻生区の魅力を活かしながら」、「いかに持続可能なまちをつくるか」の視点から検討しました。

①持続可能な

・次の３つの面から持続可能なまちづくりを考えました。

1）環境面から持続可能なまちづくりを考える

→緑の保全

→環境負荷を少なく

2）経済面から持続可能なまちづくりを考える

→自立・自己決定できる産業

・麻生区では、次の産業が区の産業として位置づけられます。

□“交流”に関わる産業

・文化・芸術産業

・商業・サービス産業

□農業

・都市近郊における農業生産

3）社会面から持続可能なまちづくりを考える

→多世代が暮らせる

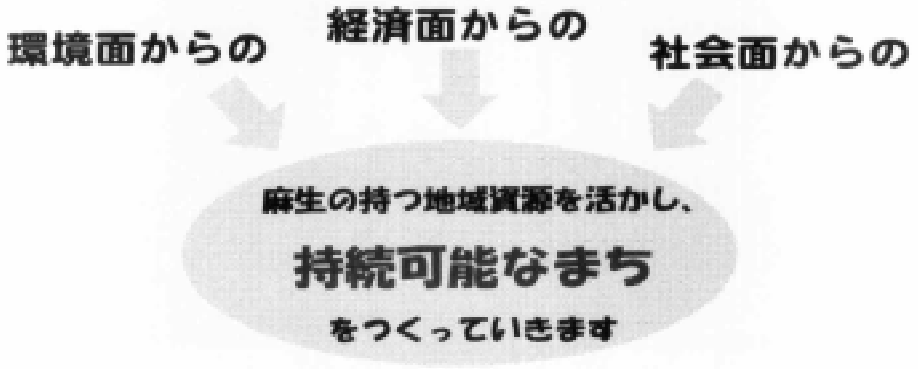
②麻生の特徴から

・麻生の持つ地域資源を活用して麻生の魅力を引き出すため、次のとおり整理しました。

1）麻生は、すでに非常に質の高いまちであり、住民もそれを誇りに思い、将来に残したいと考えています。

2）しかし、現在、これらは個々に高い質を保っているだけであることから、これらが混じり合い、都会と田園、自然美と人工美などが融合し、渾然一体となることによってさらに大きな魅力がつくられると考えます。

〈３つの面からの持続可能なまちづくり〉



2．20年後の麻生区の姿

（1）20年後のめざすべき方向

・麻生は、都会と田園、自然美と人工美などさまざまな要素が地域の資源となっています。20年後はこれらが混じり合い、渾然一体となってつくり出す魅力が地域の最大の資源になるようまちづくりを進めます。

・そして、個々の地域資源が融合することにより、緑の保全、環境負荷を少なくなどの環境面や自立・自己決定できる新しい交流、農業などの産業を生みだなどの経済面から、さらに、多世代が暮らせる社会面から持続可能なまちの形成が可能と考えられます。

・このことから、麻生区の20年後へ向けてめざすべき方向は、

「麻生の持つ地域資源を活用・融合させることによりまちの魅力を向上させ、持続可能な地域をつくっていく」

こととします。そして、融合による20年後のまちの魅力は次のように想定されます。

〈融合による20年後のまちの魅力とは〉

―都会と田園、自然美と人工美などさまざまな要素が混じり合い、渾然一体となってつくり出すまちの魅力―

1）　20年後の麻生は、文化・芸術、賑わい、街の美しさなど新百合ヶ丘に代表される都市的魅力は、質的向上によりますますその魅力を高まっています。

2）　柿生、百合丘*1などの歴史のあるまちは、その積み重ねられた歴史を活かして街の魅力がさらに向上しています。

3）　東京近郊の住宅都市としての一級の環境を持つ住宅地は、少子高齢社会に対応した新しい生活基盤整備*2を進め、多世代が暮らせるまちとして魅力を向上させています。

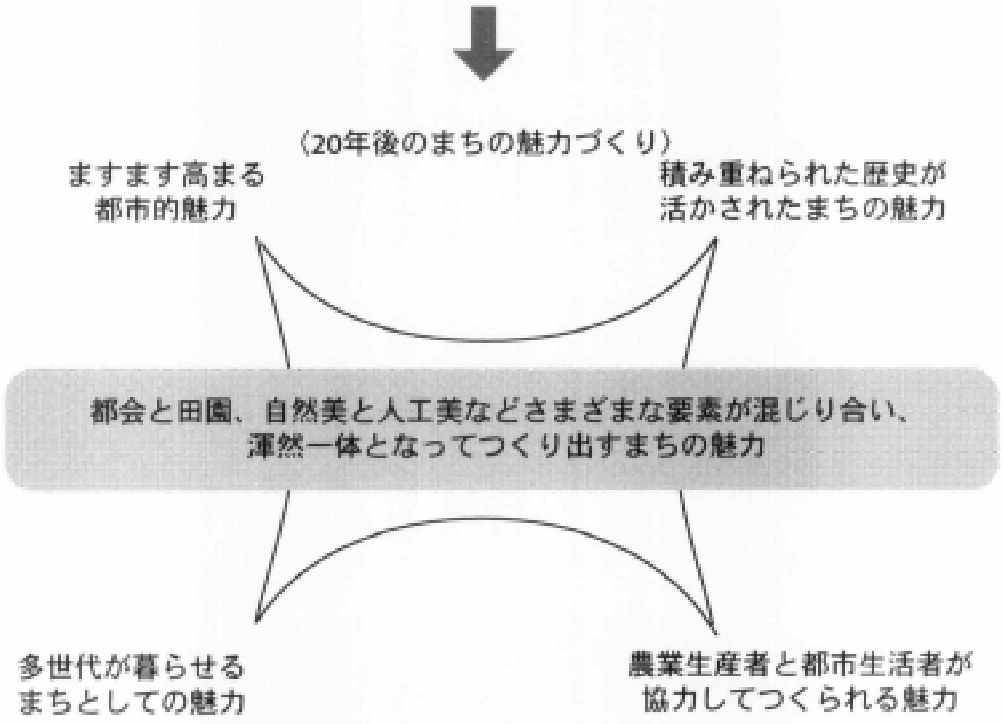
4）　生活の場からすぐ手の届くところにある里山や農のある環境は、農業生産者と都市生活者が協力して魅力の向上に努めています。

＊1　昭和33年に都市整備公団（当時、住宅公団）が川崎市で最初に、千葉県の常磐平団地、東京都の多摩平団地とならんで、百合丘団地を整備し、35年には百合丘駅が開設された。百合丘団地は、「団地族」という言葉を生み出し、都市郊外でのサラリーマンの生活様式を方向付けた記念碑的住宅開発であり、これをきっかけに民間デベロッパーによって次々と麻生の住宅地開発が行われるようになった、現在の麻生の出発点でもある。

＊2　道路、下水道等に加えて、少子・高齢社会においては、健康・福祉、買い物のしやすさ、高齢者に使いやすい交通手段、いきがいなどが、新しい生活の基盤として充実が求められるものとなる。

20年後へ向けてめざすべき方向

麻生の持つ地域資源を活用・融合させることによりまちの魅力を向上させ、持続可能な地域をつくっていく



（2）20年後の望ましい状況

・今後ますます多様化していくと考えられる市民のニーズを一つに絞り込み、将来像として表すことは困難になると想定されます。

・このため、20年後の望ましい状況とは、多様化する市民ニーズを満足させるため「生活する人それぞれが心に描く“将来像”が活きるまち」となっていることが求められます。

・このことから、

1）多様なくらし　　2）だれもがくらせる

をキーワードとし、また、21世紀のまちづくりから

3）地域の資源が活かされる　　4）持続可能な

を加えて、20年後にどのような暮らしをしているかを言葉と図で表現し、麻生の将来像を表します。

20年後の望ましい状況とは

～麻生では、持続可能で選択性の高い生活がおくれる～

■２０年後には、こんな暮らしをしている

（３）20年後のまちのイメージ

①前提

・麻生のまちのイメージは、次の1）2）を満足し、短く、分かりやすいフレーズで、ダイナミックな動きを表現したものとします。

1）20年後のめざすべき方向である「麻生の持つ地域資源を活用・融合させることによりまちの魅力を向上させ、持続可能な地域をつくっていく」―都会と田園、自然美と人工美などさまざまな要素が混じり合い、渾然一体となってつくり出すまちの魅力―を満足する。

2）20年後の望ましい状況「麻生では、持続可能で選択性の高い生活がおくれる」を満足する。

②麻生の20年後のまちのイメージ

・麻生は、優れたまち資源が多くあり、すでに一級のまちとしての資質を備えています。その個々の資源を融合させることにより、さらに先をゆくまちづくりをめざします。

・それは、花の咲き乱れる緑のゆりかごに包まれ、人と出会い、ふれあいの中からあたたかいコミュニティが形成されている、ともにつくり、ともに住み続ける、生活するまち麻生です。

みどりとえにしのタウン
《一歩先を行く　緑縁区　あさお》

1) 一歩先を行くは、麻生が現在持っている優れた資質をさらに伸ばすとともに、つくり続ける動きのあるまちづくりをイメージします。

2) 緑（りょく）は、ガーデンシティという言葉があるように、美しい街、いこい、文化、高級住宅地など都市の質の高さをイメージさせます。また、田園、ふるさと、原風景などをイメージさせます。

3) みどりとすることで、自然がつくる美しさ、人がつくる美しさを表し、'美'と'ふれあいを'イメージしています。

4) 縁（えん）は、縁側の縁であり、出会い・ふれあいなどやうるおい、やすらぎのあるくらしをイメージさせます。

さらに、地縁などネットワークやコミュニティといったひとのつながりをイメージさせます。

また、縁日の縁は、活力、華やかさ、人が集まり、交流するまちをイメージさせます。

そして知縁は、知的生産であり、文化、芸術から先端産業まで新しいまちの姿をイメージさせます。

5) えにしと読むことで、さまざまな要素《人と自然、人と環境、人と人（子どもからお年寄りまで、住んでいる人も遊びに来た人も　など）、人とまち（芸術、文化、スポーツ、遊び　など）など》、多様な組合せが一緒（とも）になってつくり、共存（ともに住み続ける）ことをイメージしています。

6) タウンは、ベッドタウンのタウンであり、わが家、わが町などヒューマンスケール（人間的尺度）なまちをイメージし、都市的なものと田園、里的なものを兼ね備え、のんびりと歩いているまちをイメージしています。

"持続可能"と"選択性の高い"というコンセプトを「緑縁」の2つの言葉に込めています。

■持続可能

・持続性は、1）環境面からの緑の保全、環境負荷を少なく、2）経済面からの自立・自己決定できる産業、3）社会面からの多世代が暮らせる環境の3つの面から進めることが必要といえます。

・このうち、経済的持続性は麻生区では、"交流"に関わる産業（文化・芸術産業、商業・サービス産業など）と農業（都市近郊における農業生産）が担うことが想定されます。

・「緑」は、環境面からの持続性と、経済面のうちの農業による持続性をイメージさせます。

・また、「縁（えにし）」は、経済面の交流であり、社会面のコミュニティといえます。

・このことから、「緑」と「縁」を持続性をイメージする言葉として選択しました。

■選択性の高い

・選択性の高さは、次の3つを満足させることが必要と考えられます。

1）地域の資源が多面的に活かされ、融合している

2）子どもからお年寄りまで誰でもが

3）多様なくらしができる

・すなわち、融合、人、暮らす場所が要素となります。このことから、場所を"緑"で、ひとを"縁"で表現しています。

・さらに、緑と縁によって、農と住の融合を表します。

◎麻生区の将来像

1．20年後のめざすべき方向

麻生の持つ地域資源を活用・融合させることによりまちの魅力を向上させ、
持続可能な地域をつくっていきます

〈20年後のまちの魅力づくり〉

ますます高まる
都市的魅力

積み重ねられた歴史が
活かされたまちの魅力

都会と田舎、自然美と人工美などさまざまな要素が混じり合い、
渾然一体となってつくり出すまちの魅力

多世代が暮らせる
まちとしての魅力

農業生産者と都市生活者が
協力してつくられる魅力

2．20年後の望ましい状況

**麻生では、
持続可能で
選択性の高い生活が
おくれる**

どのような

事情なくらし

だれが

だれもが

どこで

地域の資源が活かされ

■２０年後には、
こんな暮らしをしている

3．20年後のまちのイメージ

みどりとえにしのタウン

《一歩先を行く　緑　縁　区　あさお》